
技術研究報告の発刊にあたり



執行役員 技術本部長
永田 尚人

熊谷組技術研究報告第78号の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本技術研究報告は昨年度より、弊社の取組みをより多くの方々に興味を持っていただくため、研究開発成果および施工報告の概要を分かりやすく1頁にまとめるように改訂し、概ね好評をいただいております。

また、つくば技術研究所では開設30周年を機に、弊社の技術をお客様に分かりやすくご理解いただけるようにショールームを設けるとともに、屋外実験ヤードでは不整地運搬車の自立走行実験を体験できるように再整備を行っております。本研究報告をご一読されご興味を持たれたお客様におかれましては気軽に見学いただくとともに、多くの課題解決につきまして意見交換をお願いできれば幸いです。

昨年9月の台風15号、10月の台風19号など、今年度も大規模自然災害が発生しております。特に19号では、東日本を中心に時間雨量で多くの地点が観測史上1位を記録するなど近年にない大災害となりました。首都圏では、荒川第一調整池等の強化されたインフラにより大規模な被災を免れるなど、脆弱な我が国における「防災・減災による国民の安心・安全の確保」は大変重要な命題となっております。さらには、「生産性の向上や建設生産革新」、「国連による持続可能な開発目標（SDGs）の推進」など、現在我々を取り巻く社会環境は大きく変化してきており、解決すべき課題は広範かつ多岐にわたってきております。

これらの課題解決に対して弊社は、社会やお客様のニーズに対して常にチャレンジ精神をもって各種の難関な事業に取り組み、新たな価値を提供してまいりました。これもひとえに関係各位の温かいご支援とご愛顧の賜物であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今回お届けする技術研究報告では「建設技術力の継承」に着目し、東京大学大学院の小澤一雅教授による「技術伝承と技術者教育 ～何をどのように伝えるか～」と題する巻頭言を頂いておりますとともに、関連する特集報文2編を掲載しております。研究論文ならびに研究報告では、近年注目を浴び各社が研究開発を進めている分野である「深層学習を用いた免震下部基礎コンクリート表面の充填率算出手法に関する研究」や「中大規模の木造建築における木質耐火部材の開発」などを含めて14編の知見についてご紹介しております。土木分野の施工報告では、多発する災害からの復旧および維持管理関連工事の報告を含む5編、建築分野ではBIMの活用事例報告を含む3編をご紹介するとともに、今年度も、土木技術発表会および建築技術発表会から注目された計5編の報文も併せて掲載しています。

皆様におかれましては、この熊谷組技術研究報告をご高覧いただき、格別のご理解とご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。